第 175 号
昭和63年（1988年）7月4日

関西大学通信

THE KANSAI UNIVERSITY NEWS

関西大学広報委員会
大阪府吹田市山手町3-3-35

北アルプス・穂高岳

夏山讃歌

小杉　毅

今年も夏山のシーズンがやってきた。ひと頃の登山ブームほど華やかではないが、ここ数年来、山歩きを楽しむ登山人口が着実に増加し、山岳地方の尾根筋や谷間は、老若男女の登山者と色とりどりのテントで賑わっている。今夏も梅雨明けを待ちかねるように、都会の若者達が、高原や深山幽谷に、涼と自然美と未知への冒険を求めて、人口移動を起こすことであろう。

山岳地方は、洋の東西を問わず、山紫水明の景観を誇っており、日本でもけっして例外ではない。小規模な日本列島は、造山運動や褶曲作用によって、またその過程で火山活動も加わり、複雑なモザイク構造をつくり上げてきたが、高峻な山容と変化に富んだ箱庭的景観は、見る人の心を魅了せずにはおかない。とくに、四季折々の顔をもつ山塊が最も雄々しく目に映るのは、紺碧の空に聳え立つ夏山の姿である。

登山の歴史は古い。日本でも早くから、僧侶や修験者による宗教登山、本草家による採草登山などが行われてきた。しかし、近代登山が始まるのは明治維新以降のことである。明治の中頃までにはすでに、外国人学者や宣教師の先導によって、学者・官吏・創草期の登山家たちが、学術調査や探検、趣味を目的に、険しい山群に分け入っている。地理学者の志賀重昂が『日本風景論』を、イギリス人宣教師ウォルター・ウェストンが『日本アルプス』（英文）を著わしたのもこの頃である。

明治末期から大正期にかけて、わが国山岳地域の主要な高峰が踏破されると、登山熱は海外遠征に向かう一方、登山者の階層を大学や高等学校、地域や職域にも広げ、スポーツ登山が普及した。登山方法も往復登山から縦走形式、積雪期登山、ロック・クライミングへと発展かつ多様化し、戦前の黄金時代を築いた。

しかし、何といっても登山史に一つの時代を画したのは、戦後における登山の大衆化であった。高度成長による個人所得の増加と消費パターンの変化を背景に、他方で相次ぐ海外登山の成功に刺激されて、若者たちの登山熱が爆発した。とくに夏山は若者にとってエネルギー発散の格好のターゲットになったのである。

夏山登山の魅力は、一年中で最も安定した天候のもとで、山の自然を満喫できることにある。稜線や谷間から望む氷蝕地形のカール（半円形の窪地）やモレーン（堆石）は、登山者を氷河時代へいざなってくれるし、可憐な高山植物の群落は人の心に安らぎをあたえてくれる。疲労に耐え苦痛を克服して山頂に立った時の感激と喜びは登山者にとって何物にもかえがたい財産である。また、満天の星の下で自然や人生について語り合った友のことも生涯忘れることがないであろう。

だが山は時に非情である。夏山を見くびり、軽装で無計画な登山をすると思わぬ事故に見舞われることがある。山の天候は変わりやすく、急にガス（霧）が発生して道に迷ったり、豪雨と土石流に巻き込まれたり、突然落雷や落石に襲われるなど、不注意と準備不足による遭難事故があとをたたない。

今夏は、事前に周到な計画を立てるとともに、十分な準備をすることによって、夏山讃歌といきたいものである。

（経済学部教授）

千里眼

「ゆれるパームツリーの木陰で一息にのみほすスパークリングジュース。まぶしい程青かった海に夕日が落ちる頃　時が流れているのに気づいた――この夏、シーサイド物語。」▼これは準大手のH交通社の沖縄パック・ツアーのパンフレットのなかの一節である。沖縄での学会に出席するために何気なく手に取ったパンフレットのひとつに書かれてあった。若者といわず見る者の夢とロマンをかきたて思わずその気にさせる演出がほどこされている▼海外、国内の各リゾート情報を満載したこの種のパンフレットが大学正門前や駅頭で大量に配布されることが多くなった。景気回復が叫ばれ消費が好調に推移するなかで、その対象が自動車、ビデオ、CDなど耐久財＝モノよりも、旅行＝「自由なシーン」の享受に向けられるようになったことがその背景にある。しかも旅行ニーズ自体も景色を見たり名所を訪ねるといった観光だけでなく、保養や思い出から家族の親睦、グルメ、出会い、スポーツやライセンスの取得まで多様化した▼最も多い動機はやはり日常生活や都会の喧噪からの一時的な解放であり、そしてその比重が近年増加してきている。旅行は金で「豊かな生活シーン」を買う「一瞬（つかのま）豪華主義」と同じファッションになってきた。この「自由で豊かな時間」が現実の日常生活そのものをより豊かで自由にするための契機になるかどうか、それは旅行の過ごし方に依存する▼夏季休暇。今年も学生諸君はさまざまな「旅行」体験を通じてリフレッシュ＝成長する時を迎えた。ムードで何となくとか、パンフレットを見ただけとかで画一的な「旅行」をすることだけは避けたいものである。

（K・S）

学長選挙を公示

現在関西大学の学長は大西昭男文学部教授ですが、学長の三年の任期がこの九月に終わります。そこで左記のような「お知らせ」が関西大学と学長、大学部長、大学院部長の連名で、六月二十日付で公表されました。

お知らせ

本年9月30日をもって現学長の任期が満了となりますので、「関西大学学長選挙規程」（昭和59年10月1日施行）にもとづき次期学長選挙を実施することになりました。

この規程の大綱は、別記のとおりですので学生諸君は、学長候補者選考委員会において選出された、3名の学長候補者についての除斥投票を行うことになります。除斥投票の実施要領及びその投票用紙など必要な関係書類は、7月20日頃に除斥投票の有権者（上記学長候補者が公示された日における在籍学生）に対し、「年度はじめに届け出た住所」宛郵送することになります。

学長選挙が円滑に進捗するよう学生諸君のご協力をお願いします。

学長選挙規程大綱

1 学長は、次の手続きによる選挙の結果にもとづいて、理事会がこれを任命する。

2 学長の被選挙権を有する者は、本学の専任の教授とする。

学長の任期は、3年とする。ただし、その専任の教授としての在任期間をこえることはできない。

3 学長候補者選出の必要がでた場合、各学部の教授会は学長理事候補者を構成し、委員長は互選とする。

4 選挙管理委員長は、各学部教育職員からおのおの10名並びに大学事務職員から10名の学長候補者の選挙委員の選出を求める。なお、選考委員選出の被選挙権、選挙権は、教育職員及び大学事務職員の全員とする。

5 学長候補者選考委員会は、学長候補者3名を選出する。その選出は、投票により2名連記とし、上位3名を学長候補者とする。

6 前項によって選ばれた3名の学長候補者について、選挙管理委員会は、全学に対して公示を行い、公示内容は次のとおりとする。

(1)氏名 (2)生年月日 (3)履歴（学歴、職歴）及び研究分野

7 この3名の学長候補者について、全在籍学生（専任の教育職員又は大学事務職員たる地位を有する者を除く）は除斥投票を行う。この場合、学長候補者が公示された日における全在籍学生の3分の1以上の者によって除斥された候補者は除かれる。2名以上の候補者が失格したときは、選考委員会は再度学長候補者を補充選考する。

8 以上の手続きを経た学長候補者の中から、専任の全教育職員によって最終的に学長を選出し、理事会に推せんする。

以上

学長選挙規程大綱

文中に紹介されている「学長選挙規程大綱」も、学内に掲示されていますが、念のため以下に再掲しておきます。

1 学長は、次の手続きによる選挙の結果にもとづいて、理事会がこれを任命する。

2 学長の被選挙権を有する者は、本学の専任の教授とする。

学長の任期は、3年とする。ただし、その専任の教授としての在任期間をこえることはできない。

3 学長候補者選出の必要がでた場合、各学部の教授会は学長理事候補者を構成し、委員長は互選とする。

4 選挙管理委員長は、各学部教育職員からおのおの10名並びに大学事務職員から10名の学長候補者の選挙委員の選出を求める。なお、選考委員選出の被選挙権、選挙権は、教育職員及び大学事務職員の全員とする。

5 学長候補者選考委員会は、学長候補者3名を選出する。その選出は、投票により2名連記とし、上位3名を学長候補者とする。

6 前項によって選ばれた3名の学長候補者について、選挙管理委員会は、全学に対して公示を行い、公示内容は次のとおりとする。

(1)氏名 (2)生年月日 (3)履歴（学歴、職歴）及び研究分野

7 この3名の学長候補者について、全在籍学生（専任の教育職員又は大学事務職員たる地位を有する者を除く）は除斥投票を行う。この場合、学長候補者が公示された日における全在籍学生の3分の1以上の者によって除斥された候補者は除かれる。2名以上の候補者が失格したときは、選考委員会は再度学長候補者を補充選考する。

8 以上の手続きを経た学長候補者の中から、専任の全教育職員によって最終的に学長を選出し、理事会に推せんする。

以上

学長選挙の日程について

学長候補者選考委員会

学長候補者の公示 7月6日（水）

学長候補者の公示 7月6日（水）

投票用紙などの発送 8月19日（金）〈消印有効〉

投票の締切 8月31日（水）

除斥投票の集計結果発表（除斥投票の結果、2名以上の失格者がなかった場合） 8月31日（水）

学長候補者の最終的確定の公示 9月1日（水）

除斥投票の集計結果閲覧 9月7日（水）

学長選挙会 以上

キャンパス情報

日本学術会議の会員に 津田、中両教授

日本の学界を代表する機関である日本学術会議の第十四期会員が六月十七日に決まった。

本学からは、第一部（文、哲・教・心理・社、歴史学）に津田秀夫文学部教授が、第二部（法律、政治学）に中義勝法学部教授（再任）が選出された。会員の任期は三年間。

学位取得

○（文学部教授）丹治 昭義

京都大学文学博士「中観思想研究」学位授与年月日は、昭和六十三年一月二十三日。

第11回 総合関関戦成績表

競技名	関西大学 勝	関西大学 敗	関西学院大学 勝	関西学院大学 敗
スキー競技	○		●	
航空	△		△	
ボクシング	●		○	
ヨット	●		○	
重量挙	●		○	
庭球	●		○	
漕艇	○		●	
射撃	●		●	
アメリカンフットボール	△		△	
ハンドボール	△		△	
フェンシング	●		○	
柔道	○		●	
水上競技	○		●	
軟式庭球	○		●	
アイススケート	●		●	
硬式野球	●		△	
サッカー	△		△	
陸上競技	○		●	
バレーボール	○		●	
卓球	○		●	
バドミントン	△		△	
弓道	○		●	
弓相	●		●	
アーチェリー	●		○	
ゴルフ	●		○	
アイスホッケー	●		○	
軟式野球	●		○	
ホッケー	中		止	
ラグビー	●		●	
器械体操	●		●	
バスケットボール	●		○	
拳剣道	○		●	
空手道	○		●	
馬術	●		●	
自動車	●		●	
レスリング	●		●	

○＝勝 ●＝敗 △＝引き分け

白馬で夏を感じよう！

黒菱山の家

本学には学生諸君の課外活動の場として、信州北アルプス・唐松岳の麓に「黒菱山の家」がある。

「山の家」は、"白馬"を見下ろす方尾根スキー場のまった中に設けられ、二階建て、約六十名を収容できる和室・ベッドルームを有し、年間を通じて開館している。

そこで、夏期の避暑を兼ねてゼミ旅行やクラブ合宿など夏休み中に"行動派"を自指すべく、旅行プランにせび加えてみたいと考えている学生諸君に、山の家宿泊利用を織り込んだ周辺の紹介をしておこう。

【その一】朝、大阪を発つと夕刻には「山の家」に着く。なお、山の家まで車で行くこともできる。標高千六百メートルに位置するため、朝夕は、夏場でも冷気がさす。山の家では就寝前にぜひ星空を仰いでみよう。高山での夜空の星は実にみごとである。天気の良い日には、唐松岳まで登れば立山連峰・富士山を遠望できる。また、下界とは一味違う清涼感は、読書・グループ研究などにも絶好の場所といえよう。

【その二】松本から糸魚川まで約一〇五・四キロにわたるJR大糸線の沿線では、松本から北へ約十キロ、柏矢町・穂高一帯を通称「安曇野」と呼び、道祖神・庚申塚の宝庫として有名なところである。さらに大町からは、手軽に黒四ダムへも行ける。木崎湖周辺、国道一四八号線沿いには白馬三湖が並ぶが、ここから眺める北アルプスの山々も、旅情をそそる。

【その三】信濃路は温泉が多い。松本からは白骨・渚湯・中ノ湯・坂巻・入山辺温泉などがあり、大町からは葛、さらに北へ小谷・姫川温泉などがある。いずれも簡単に立ち寄れるとこたえたから、いで湯に一汗流すのもよいであろう。

「山の家」の利用申し込みは、使用十日前までに厚生課・第二学生課へ印鑑、学生証を持参のうえ手続きをすること。使用料は一泊五百円、食費（一食四百十円）である。

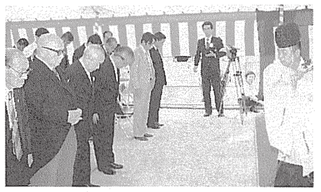
詳細は「山の家」パンフレットを厚生課・第二学生課に備えつけているので、それを参照のこと。

なお、夏期休暇中には、一週間ほど休館が予定されているので、この点留意されたい。

（学生部）

新秀麗寮 厳粛に地鎮祭

留学生とふれあいの場に 女子棟も設置



地鎮祭は建設予定地で厳粛に挙行された

本紙第一七二号（四月号）で既報の「関西大学学生国際交流館・秀麗寮」の施工に伴う地鎮祭が、六月二十日（月）午前十一時から建設予定地である旧秀麗寮跡地において挙行され、久井理事長、大橋教学部長をはじめ大学関係者、施工業者の関係者など、およそ百名が列席し、工事の無事と順調な進捗を祈念した。

新しく建設される「関西大学学生国際交流館・秀麗寮」は、鉄筋コンクリート造り地上四階一部五階建て、建築面積は一千三百六十二・六九平方メートル、男子棟三棟、二人部屋五十四室、一人部屋二十八室、女子棟一棟（二人部屋八室、一人部屋九室）で、収容可能な員は、男子百三十六名、女子四十五名の計百八十一名である。

新寮の特色は、男子棟、女子棟とも寮生と留学生が同室で寝食を共にする点にあり、新寮は、現居定五大学からの交換留学生や夏季のハワイ大学などの学生諸君を対象とした「サマーセッション」の宿舎として予定している。

また、女子棟が設けられたことにより、本学で初めて女子に入寮の道が開かれた。

竣工は、来年三月下旬の予定。

多目的ホール・国際会議場 屋内に温水プール

記念会館（仮称）建設決まる

創立100周年

記念会館（仮称）の完成予想図（正面から見たところ）

本学では、昭和六十一年の創立一〇〇周年を記念して、これまでに所定の計画に則して各種の記念事業を実施してきた。その中でもメインの事業であり、学内外から待望されている「記念会館（仮称）」の建設計画が、このほど慎重な検討を経て固まり、近く着工の運びとなった。

この会館は、大学における学術研究の成果を発表し、それを社会に還元するための教育・文化的事業を恒常的に実施する学術文化センターとしての機能を備え、かつ国際交流や研究発表の場としての機能を併せ持った建物として、総額二十二億円の予算で建設するものである。

その資金は、昭和五十八年十月より創立一〇〇周年記念事業募金として、広く学内外の関係各位に対して募集してきた寄付金をもって、これに充てることになっている。今日までに、各方面の多くの方々から賛同を得て、多額の寄付金が寄せられている。

当初この会館は、十七億円の建設費で、千里山キャンパス近辺に建設する予定で進めていたが、最終的には、千里山キャンパス内に建設することになった。これと同時に建設費についても、五億円増額し、二十二億円とし、本年九月末まで募金期間を延長した。

建設場所の選定については、関係者の度重なる検討の結果、関西大学会館の南西側に位置する大学プールの場所が選ばれ、その地に建設することになった。

建設の基本計画は、学内各機関及び校友会・教育後援会から選出された委員により構成された記念会館（仮称）建設計画専門委員会において原案が立案された。これを学内諸手続きを経て具体化し、現在、実施設計の段階に至っているものである。その概要は、次のとおり。

◇建築総面積は五、五六七坪（一八、四四平方メートル＝三七一坪）で、構造は鉄筋三階建て、規模については、関西大学会館とほぼ同程度の大きさとなる。

◇1階には、二十五メートル、七コースの温水プール（一、二二六平方メートル＝三七一坪）が設けられ、年間を通じて使用することができる。

ちなみに、現有のプールは昭和三十九年八月、教育後援会の厚志により建設、大学が寄贈を受けたもので、これまで二十有余年わたって学生、教職員に使用されて親しまれてきた。このたびの温水プールの併設は、撤去される現プールの再現を意図して計画されたものである。

◇二階には、約八百人が収容できる多目的ホール（七八八平方メートル＝二四一坪）が設けられる。このホールは、従来、学内外の他の施設で行われていた講演会、学会、公開講座、各種団体の会合などの使用に供し、その有効な利用が期待される。

二階にはこのほか、国際会議が開催可能な会議室（二二平方メートル＝六五坪）を設置し、国際化時代にふさわしい施設として、その活発な利用がまたれるところである。

また、中・小会議室、交流ロビー、展示ニーナナなどが設けられ、プールの併設は、撤去される現プールの再現を意図して計画されたものである。

◇三階には、レストラン、ティー・ラウンジ、ならびに応接室、事務室などがレイアウトされ、記念会館としてのバラエティーをもたせた設計となっている。

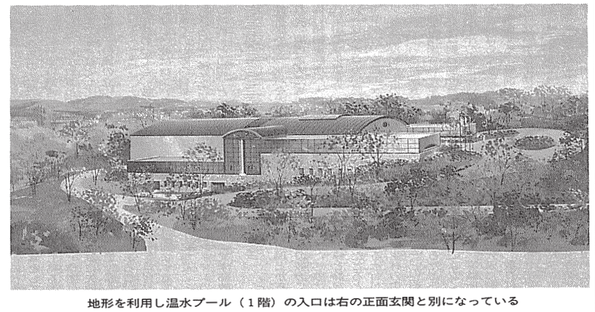
◇建物の入口は、関大会館側の三階部分（地形の関係から）に入口が設けられ、プールへは、第一中学校グラウンド側に専用の入口が設置される。ホール・会議室部分とプール部分との異なる機能を構造上分離させ、地形の高低差を利用した設計上の工夫がほどこされている。

なお、当初との会館の中に併設を予定していた、国際学術交流協定校などからの外国人研究者のための宿泊施設については、検討の結果、会館の規模や使用用、管理上の問題から、一〇〇周年記念事業として別途に確保することに変更した。

＊ ＊ ＊

建設工事については、本年度のプールの使用が終わる九月ごろから、まずプールの撤去に取りかかり、その後本格的工事に着工する。工事期間は一年二か月を予定し、昭和六十四年十月に完成を見込んでいる。

（創立一〇〇周年記念事業事務局）



地形を利用し温水プール（1階）の入口は右の正面玄関と別になっている

僅少差で敗れる

―第11回総合関関戦―

関大、関学両大学体育会が総力をあげて激突した第11回総合関関戦は六月二十三日（木）から三間、本学キャンパスを主会場として行われ、本学は十五勝十六敗五分の僅差で千里山キャンパスで初めての黒星を喫し、対戦成績も勝四敗とした。

大会開幕中はあいにくの天気であったが、陸上ホッケーが中止になったのは予定どおり行われ、梅雨空を吹き飛ばすかのごとく競技が展開された。本学はアメリカンフットボールが引き分けるなど健闘したが、昨年の雪辱を期する関学の気迫が勝り敗退した。

今年も「健康マラソン大会」が行われ、七十五歳の最年長者を筆頭に、遠方からの参加者含め多数の市民の参加を得て、大会に花を添えた。

各種目の対戦成績は別表のとおり。

（学生部）

第2部

○月曜日～金曜日（7月25日～7月31日及び8月10日～8月22日を除く）の夜間（20時～翌朝8時）は学内立ち入り禁止とする。

○土・日曜日及び7月25日～7月31日は届け出により施設を利用できる。

○8月10日～8月22日は一斉休業とする。

第1部

○月曜日～金曜日（7月25日～7月31日及び8月10日～8月22日を除く）の夜間（20時～翌朝8時）は学内立ち入り禁止とする。

○土・日曜日及び7月25日～7月31日は届け出により学内立ち入り許可制とする。

○8月10日～8月22日は一斉休業とする。学内立ち入りを禁止する。

○土・日曜日及び7月25日～7月31日は届け出により施設を利用できる。

○8月10日～8月22日は一斉休業とする。

表①

表②

施設		施設利用時間 平日	施設利用時間 土・日・曜日	施設利用時間 7／25～7／29
第1部	学部	9時～16時	休業	休業
	体育館	9時～17時	9時～17時（届け出により許可）	休業
	試之館	9時～20時	9時～17時（届け出により許可）	9時～17時（届け出により許可）
	第一診療所	9時30分～15時	休業	休業
	総合図書館	9時～17時	休館	9時～17時
	情報処理センター	9時～16時	休業	9時～16時
	就職課	9時～17時	休業	9時～17時
	その他	9時～16時	休業	休業
第2部	学（教）事務室（舎監室）	13時～19時 13時～19時	13時～19時（届け出により許可） 休業	13時～19時（届け出により許可） 休業
	体育館	14時～20時	休業	休業
	有鄰館	13時～19時	休業	13時～19時（届け出により許可）
	第二診療所	13時～19時	休業	休業
	天六分館（閲覧室）	14時～20時	（土曜日のみ）14時～20時	休館
	第一般閲覧室	9時～20時	14時～20時	休館
	就職課	13時～19時	休業	13時～19時
	人権問題研究室（分室）	16時～19時	閉室	閉室

なお、就職課資料室は7月21日～9月20日（土・日曜日及び8月15日～8月18日は除く）の間、第1部は10時～16時50分、第2部は13時～19時開室する。

アルバイトの就労条件 事前に必ずチェック

夏休みを目前に控え、学生諸君の中には、あれこれと夏休みのプランを練り上げ、バイトでと考えている人も多いだろう。しかし、夏休みの学生アルバイトの需給はさたんに大きな問題となっている。

まず大切なことは、安全性と就労条件の確認をすることである。

友人の口こみ等によるお願いの場合が多く、そのためにつけて、トラブルや事故が発生する例が多くなっているので、こく手短なアルバイトをする上での諸注意を述べておこう。

アルバイト学生が、法に定められた労働条件を明示、確認、合意とはしめて成立するものである。トラブルが起こった際に「詳しく条件聞いてなかった」という言葉を耳にすることが多い。だから、必ず雇用主と文書で確認しておけば、大きなのトラブルは未然に防ぐことができる。大学では雇用主に対して、出勤、就労したことを証明するように求めている（アルバイト登録の際に交付し、アルバイト留意者へ」を熟読のこと、アルバイト学生たる諸君自身が注意しておくことである。

次に、アルバイトをする目的をしっかりつかんでいるかどうかということである。日常生活がアルバイト収入によって「拡大発展」に向かう前に意識するこ

とにもなりかねない。つまり、金銭面で得るところがある一方、貴重な学生生活の中で失うものも大きいということである。

以上、要するに就労の際は、必ず労働条件を確認することであり、万一、事故やトラブルに遭遇した時には、たのもうわず学生部へ相談に来られたい。

（学生部）

ソウル五輪の日本代表に

本学馬術部監督若原氏

ソウル・オリンピックの総監督若原尚氏（昭和四十二年商学部卒）が、馬術の日本代表として、本学校友会の学生諸君を対象とした「サマーセッション」の講演を行なった。

◆ 五月十八日（水）午後三時三十分から午後五時。場所は研究所会議室。講演テーマは「馬術伝語言詞典の構想と問題点」。通訳は尾崎實文学部教授。学外からも中を通じて馬術部で活躍、昭和十一年には第三十八回全日本学生馬術選手権大会で優勝、学生日本一の座についている。また、国体、アジア大会やヨーロッパの馬術大会にも出場、優秀な成績を収めており、九月に開催されるソウル・オリンピックでの活躍が期待される。

夏季休業期間中の施設利用

昭和六十三年度夏季休業期間（七月二十一日（木）～九月二十日（火））中における学内措置は次のとおり。

夏季休業期間中の土・日曜日及び七月二十五日（月）～七月三十一日（日）並びに八月十日（水）～八月二十二日（月）は休日扱いとし、学内立ち入りについては表①の措置をとるので、学生諸君の協力を願いたい。

なお、期間中の事務取り扱い及び施設利用時間については表②のとおりとする。

学生諸団体の行事紹介

【第一部】▼剣術部＝7月 生体操競技選手権（春日市 権（大宮公園プール）▼アーチェリー部＝九月十五日（木）

四日（月）～九日（土）二回 立総合体育館 ▼自動車部＝八月七日（日）全国本学生テ

生展（北浜キャラリー中之島） ムーナメント選手権（東京）▼なぎなた部＝八月七日（日）全

▼落語研究会＝九月十五日（木） 2級技場）▼相撲部＝九月十

上方落語の夕べ（香川県教育 七日（土）西日本学生相撲個

寺市公会堂）▼弓道部＝七月 人体重別選手権（堺大浜相撲

二十三日（土）～二十六日（火） 日本なぎなた選手権（兵庫県 場）▼拳法部＝九月十八日（日）

全日本学生弓道 選手権（神戸市 立中央体育館）▼ソフトボール 立総合体育館 ▼漕艇部＝八 日本拳法総合選手権（大阪市

ル部＝七月二十九日（金）～八 月二十五日（木）～二十八日 立中央体育館

月一日（月）西日本大学ソフ 【第2部】▼英語研究部＝

トボール選手権（香川県丸亀 リンピックコース）▼水上競 八月一日（月）～六日（土）

市）▼器械体操部＝八月四日 技部＝八月二十八日（日）～三 第二十五回夏季英語研修会

（木）～九日（火）全日本学 十一日（水）全日本大学選手 （和歌山県・周参見中学校）

学部短信

文学部

◆ 中国語弁論大会で山城さんが一位に 六月四日（土）、マイドーム おおさかで、日華青少年交流協会創立一周年・日本アジア航空創立三周年を記念して、日華青少年交流協会・日本アジア航空株式会社主催、財団法人交流協会・亜東関係協会・大阪中華学校後援による中国語弁論大会が開かれた。本学から参加した中国文学科二年次生の山城規子さんは、「ありがとういう言葉について」と題して熱弁をふるい第二位に入賞、カップ・賞状の他に副賞としてCDプレーヤーが授与された。

商学部

◆ 商学部ゼミナール協議会主催ソフトボール大会 六月十九日（日）、第三グラウンドにおいて、商学部ゼミナール協議会主催のゼミ対抗ソフトボール大会が開催された。参加チームは二十一ゼミと商学部ゼミナール協議会の合計二十二チームで、優勝は加藤ゼミであった。天気にも恵まれ、ゼミ内ゼミ間の交流を深めながら、終日熱戦が繰り広げられた。

若い研究者が多数出席した。

◆ 五月十九日（木）午後二時四十分から午後四時十分。場所は大学院学舎二階二十八A・B教室。講演テーマは「水滸伝の読み方」。通訳は井上泰山文学部助教授で、数多くの学生諸君が来聴、会場をいっぱいに埋めつくした。

関西大学通信

夏が来れば思い出す

私の尾瀬・私の妙高

上田 惟一

夏の思い出といわれても、はたと困る。山行きのことしか浮かんでこない。それも順序だてて思い出すことなど不可能である。おぼえているのは一部分、それも強い印象を受けたことだけで、周辺部分は急速にぼやけていく。そこだけが切り取られて頭のかたすみに残っているのは、尾瀬と妙高での「事件」のことだろうか。

尾瀬からの帰りみち、川治温泉(栃木県)に出ようとした。十時間と少しはかかるだろうとのヨミで、朝早く出た。長蔵小屋から出たように思う。雨が降れば最短距離をとって山をおりるつもりだったが、夜半に雨はあがってしまった。長距離コースだったが、川治温泉に行くこととした。途中までずっと長い尾根道だった。予想外だったのは、風倒木だらけだったことである。気分爽快に尾根を歩くどころではない。倒れている木を乗り越えたり、その下をくぐり抜けているうちに、時間だけがたった。昼食の時点で半分もいっていなかった。尾根道を離れ、風倒木から逃れることができたのが、本来の到着予定時刻。結局この日は午後九時か十時まで歩くこととなった。

日が落ちるころには、疲れも手伝ってか、枯木が人に見える。日没、まっくらな山道を懐中電灯で足下を照らしながら歩く、ペースは落ちるし、ときどき木の根っこにけつまづき、転びそうになる。道が分かれているところでは、その都度止まって検討したり、偵察を出したりで、時だけは無情にすぎさっていく。宿で時間どおりに夕食にありつくのはあきらめた。

沢に出る。それに沿ってさらに数時間、道はいきどまってしまった。だがよくみてみると道はあるにはあった。それは大きな岩の前でふたたび山の方へ上がっていた。これ以上動くかどうか、しとしと雨はふりだすし、昼から何も食べていない。それに暗闇。不安な気持の中での決断、野宿することとした。毛布はあったが、寝袋は不足。寝袋の中に二人ずつ入って寝ようとした。があまりの寝苦しさに外へ這い出し、雨にうたれながら毛布にくるまって寝た。朝の光を見た時はさすがにホッとした(私たちの通った道は最近「廃道」とされた道だった。台風で倒された木々に覆われている尾根に入りこんだのであった)。

妙高へは、多人数で行った。たしか二十三人だった。女性の数のほうが少し多いパーティだったろう。登った後で笹ケ峰へまわり、牧場の雰囲気を楽しもうというので、人数が脹れあがったのだと思う。赤倉から燕までバスで出て、登山開始。初めはジープでも通るような車道で、先頭から最後までの長い列を写真におさめようとしてずいぶん前に出たことをおぼえている。

天気は曇、昼食時だけは小雨にみまわれ、ポンチョをかぶってお握りをかじる。午後一時すぎ、山頂へ、雲の中にはいっているので眺望はよくない。風も冷たいので、すぐに下に降りることとする。天狗池(外輪山の内側にある)へ降りたところ、天気は回復。ここは湿原地帯で高山植物にもめぐまれているので、大休止をとった。ここまではよかった。ここまでと言うのは、ここで時間をたっぷりとったために、バスに半分以上が乗り遅れてしまったからである。

天狗池から燕まではかなりの標高差があった(当時の地図が見つからないので、正確に何メートルの標高差かわからない)。足早な下山の得意な人もいれば、一歩一歩着実に確保して降りていく人もいる。全体としては後者の人にあわすことになるから、ペースは当然のこととして落ちる。途中でこれでは夕方のバスに間に合わないのではないかという予感にとらわれる。なにせバスは朝に一本、昼に一本、夕方に一本ぐらいしか来ていない。最後のを逃すと宿へ戻る方法はない。朝、バスを降りたとき、まわりに家は一軒もみあたらなかった。いそがねばならない。

山道を走って降りられそうな少数が先行し、できるだけバスに待ってもらおうとした。長い行列がいきおいひきのばされて、一人一人の間が極端に開くところが出てきた。十一人が間に合い、十二人がアウト、私もアウト組の一人。残された十二人はどうなったか。運よく近くに飯場があり、そこのトラックの荷台にのせてもらって宿舎まで帰還することになる。

尾瀬も妙高もその後大きく変化した。尾瀬のスーパー林道計画は中止されたが、おとずれる人の数は私のいった時に比べれば大きく増加している。一方、信越線の柏原駅と田口駅はそれぞれ妙高高原駅と黒姫駅に改名し、多くの人を招きよせているらしい。どちらも古びたリュックを背負って行く場所ではなくなったようである。もっともリュックを背負えば「ギックリ腰」が出そうだから、それもそもそもかなうまい。

(法学部教授)

遥かな虹(イリス) 歌の涯(はて)

坂本悠貴雄

黄金の帆を掲げて来り、そして去るとヘッセのいう青春の夏も恋も私からは遠い。

しかし、この季節と共に思い起こし得る歌がいくつかあることは、ささやかな幸せだろうか。遙かな虹を望むようなものではあるが。

「広島が原爆で破壊された後、日本人は自分たちの勝者をオレンジジュースで出迎えた」と西ドイツのユダヤ系思想家・心理学者であり作家でもあるウルリッヒ・ゾンネマン(一九一二〜)はいう。また「別れの時の飲物に、彼らがどんな成分のものを用意したかについては、まだ報道されていない」とも。

だが、彼も報道機関も知るべきであろう。つぎのような歌があることを。たとえ、その成分が何であろうとも。

されどまた人は生きをり広島
は霊翳り射す葉月炎天
田代太一

これは、信じ難いことだが十七歳の高校生の作である。まさに広島鎮魂歌の白眉。一・二句、四句いずれも天与の想というべきであろう。ゾンネマンよ、あなたは嫉妬で狂いはしないか。

ただ、あまりにも若くして詩神の寵を得てしまったこの作者には、大学などへ行けぬ怖れ(あるいは歓び)があろうと私はみた。

戦いの日の悲しみは、今も尽きずかつ深い。

凛々しきは従兄らのもの 恋
ひいづる遠き海溝鴨距草の藍
宮沢初江

かく南溟に散りし青年数千。乙女の日の想い今に変わらず熱き女性数千。「凛々しき」といい、「海溝」といい「鴨距草」という。露草のはかない藍さながらに恋いいずる面影に涙浄かれ。

その成分を問う人はあるまい。

ところで、戦いに敗れた後の世代にも当然恋はある。

抱きしめて抱きしめられて別
れたり青春はわれに涙をくれ
し 杉本和彦

作者は十八歳。抱きしめる。そして、抱きしめられる。幼くて精一杯の受動と能動。その時、卒業という里程標が胸底に打ち込まれて友は散り、涙は滴る。k、s、rなどの子音の交錯もせつない。

以下、学生の歌をつづけよう。

めんめんと綴りし愛語さかし
まに写して残る吸取紙恋文
波瀬 蘭

今どきラブレターとは珍しい。しかも万年筆で。入学祝の品によ うやく出番が訪れたか。しかし、めんめんの情が相手に伝わることはあるまい。吸取紙に搦め捕られたとあっては。

俯きて向ひゐたれば君が手の
林檎の種に灯點るごとし
金子葉子

他方、ここには言葉より美しい沈黙がある。その沈黙のきわまる時、二人の魂は林檎を触媒として発光する。その光は、永遠にすべての恋人のものである。

盛装のレース手袋麗しく殺し
文句もカーマイン・レッド
林真由美

帽子から靴に至るまで寸分の隙なく盛装して、さて仕上げはレースの手袋か。それともお供の青年か。「殺し文句」の代わりに、洋紅色のスポーツカーこそこのお嬢さんにはふさわしい。

しかし、若い青春もあるのだ。

アンドレ・ジイドつひに死甲
斐たり得ずと麦熟るる地を列
車過ぎたり 高橋慎也

「一粒の麦もし死なずば」(一九二〇)とはいうが、麦死して麦畑となるとも、ジイドを見捨てた青年の目にはその広漠がうとましい。一気に列車は過ぎる。ああ。

そして、いずれ夏は過ぎよう。

君までを半径として見渡せば
ただ撫子の風の立つ街
安田 笙

夏が終わっても、彼には「君」しかない。彼はコンパスの脚だ。君までの距離の自乗かける円周率、イーコル、撫子の風の立つ街。どの時代、どの国、どの学校にもこういう計算をした学生はいるまい。

締め括りに、ふたたび広島鎮魂歌の作者を呼びもどそう。

「見ること、それは目を閉す
こと」朝明けの沖のつばくら
めが面切れ 田代太一

一・二句、入試答案としては零点。しかし眼を閉じて見る者こそ詩人だろう。この時、作者は十八歳。私の予想通り入試に失敗して浪人中。以後進学を果たさず就業。

しかしそれが何であろう。私など「されどまだ吾は生きをり」だ。黄金の帆と共に到来する夏が、すべての青年の上に輝くことを祈ろう。それは、ゾンネマンの願いでもあろう。

(文学部教授)

浅虫・八甲田で過ごした夏の日

鉄川 精

東北大学で過ごした学生時代は、敗戦の痛手から立ち直りだした昭和二十四年から二十八年三月までである。当時は現在と違って食糧などの生活物資が不足し学費稼ぎのアルバイトも好況とはいえなかった。歩のよいバイトはヤミ屋、カツギ屋という時代で、学生生活は優雅とは縁遠く現在の学生諸君は恐らく想像できないであろう。今思えばやりたいことをやり、悔いのない楽しい青春時代を過ごせたようだ。

生物学教室に配属された三、四年生の夏休みに入ると、青森市浅虫の附属臨海実験所で臨海実習が二週間にわたって行われる。主食の配給米を持参し実習を受けるのである。実習ノルマは朝八時から夕方五時まで午前中は講義である。実習時間を過ぎてもスケッチや測定をしないとノルマ達成できぬことが多く、夜ふかしする真面目、勉強型人間もいる。

実習での楽しみは魚釣りや、和船を漕ぎだしてウニやナマコを採ることである。陸奥湾の海は青く澄んでいるので船上から海底がよく見える。ムラサキウニやマナマコを長いヤスで突いて採り、ムラサキウニは殻を割り生殖巣をすすると美味しいこと、マナマコは商売道具のメスでぶつ切りにして食べると満腹感が得られる。池沼調査に出かけた時にマムシを見つけ、つかまえて皮をはぎ松葉いぶしにして食べてしまったこともあった。

夜は浅虫温泉街の旅館を歴訪し入浴するのが楽しみである。駅前のパン屋でコッペパンを買い腹ごしらえしてから旅館に行き温泉につかる。脱衣場は男女別だが浴室は一つ、後ろ向きで洗髪して時を稼ぐうちに旅行中の女子大生が入浴しにくることがある。東北の温泉は天真爛漫で実に楽しい。一晩で三軒ぐらい旅館めぐりをする猛者もいた。今はこの慣習も生物学専攻の学生数倍増のため中止とか。

温泉街のはずれに飲み屋「黒猫」がありドブロク、カストリ、バクダンを飲ませていた。学生宿舎で夜半に友人がガバと起き、見えん何も見えないと騒ぎだした。メチル入りバクダンで失明した夢をみたためと判明一件落着。学生宿舎で何かにつけてコンパをしたが、酒の肴が足りなくなると水族館の魚を手網ですくい料理した。しかし水っぽくて味がなく失敗だった。

ある夕方、実習室に見事なホタテガイが沢山運びこまれた。Y先生の研究用だったが一部を失敬し網焼をして酒の肴にし腹に納め、翌朝そ知らぬ態で実験をしていた。先生は個体数の足りないのに気づかれたが、いいよとおっしゃられただけだった。許されぬ行為だが食糧の足りない時勢ということで免じてくれたのかも知れない。

浅虫の臨海実習終了の翌朝、八甲田山植物実験所へ登り夏休みを過ごす。所属していた動物生態学講座は加藤陸奥雄教授(敬称親分)を筆頭にカの研究が盛んな頃で活気に溢れていた。親分から助っ人を指名され調査資材運びと採集しながら、生態学的調査法と研究方法を学びとる機会でもあった。

国鉄バスが酸ケ湯に着くと酸ケ湯温泉名物男の鹿内老人が、明治の肋骨軍服姿でラッパを吹き迎えてくれる。鹿内老人先導で親分の後に従い植物実験所へ入構する。

八甲田のブナ原生林には吸血しないトワダオウカ、吸血するブナノキヤブカ、シロカタヤブカ、ヤマダシマカなどが木の股の水溜りに生息している。朝食後に採集用具を持ち指示された定点に行く。

定点では腕と脛を露出し身体を動かさず汗の吹き出るまま坐っている。しばらくするとカがきてとまり吸血する。吸血した雌のカを傷つけないように捕集びんにとり記録する。時間ごとにカを採集し実験所に持ち帰り産卵させ研究に供する。全くじっと忍の一字でやらねばならない。生態研究は辛いものだとつくづく思った。

息抜きに動植物観察を兼ね親分と登った八甲田大岳頂上から、眼下に広がる津軽海峡の彼方に紫に煙る北海道を望見した感激は忘れられない。また深い緑と静寂に包まれたほの暗い道をたどると、木もれびにきらっと光る水面が行く手に現れる。ブナ原生林の中に太古の姿そのままに五つの沼がある。湖沼調査しながらたどると周囲が開け大町桂月がこよなく愛した蔦温泉に出ていた。実験所では夜九時過ぎに親分を先頭に酸ケ湯へ入湯に行くのだが、散りばめた星が大きくまばたきもせずに輝いているのが印象的だった。

学界をリードする先生方と寝食を共にし、学問への情熱と研究の在り方を仕こまれたのは事実で、いつまでも失わずに生きたい。

(社会学部教授)

「夏が来れば思い出す
遥かな尾瀬 遠い空……」
という歌を憶えている?」
「ああ、『夏の思い出』ね。たしか作詞は詩人の江間章子じゃなかったかな」
「さすが物識りだね」
「その歌がどうかしたかい?」
「長く暑い夏に、人はさまざまな邂逅をしたり、さまざまな決断をしたりするような気がしてならない。そしていつか夏が来れば思い出す……」
「何だか知らないけれど、まさか[illegible]」
「そんなうすっぺらなものじゃない。もう少し上品で、重くて、貴重な経験のことを言っている」
「これは失礼」
「それにしても、どうして夏が来れば思い出すんだろう?」
「それは太陽のせいだ(笑)」
「まさか!?」
「一度じっくりと考えてみることにしましょうか。とにかく『夏は来ぬ』だからね」
(奥村)
=50音順=

人生最大の決断と実行

羽原 敬二

[illegible]出されることが二つある。しかもこの二つの事柄は、いずれも私のこれまでの人生のなかで、最も貴重な体験と試練の場にあって、重大な意思決定を行った時のことである。

その一つは、勤めていた会社を辞めて大学院を受験しようとしていた夏のことである。

一生勤務し続けた場合における自分の将来の可能性と、別のことに挑戦してやり直した場合の展望とを比較考慮して決断を下したのである。どうせいずれもだめなら、少しでも自分として納得のいくことをしようと思った。当然、ずいぶんと迷いは残ったが、自分が満足のいくように、新たな試みに挑むべきであると考えた。

結果的には、運よく関西大学商学部の大学院に合格できた。しかし、この時は、とにかく無理やりにでも自分をこの大学院に押し込んでやるといった意気込みのみで事を成し遂げた感じであった。年齢にも、まだまだエネルギーがあり、傍若無人、猪突猛進ともいえる態度であったと思う。したたかに生きぬいてやろうという気概に溢れていた時期のことであった。

クーラーの効いた京浜東北線の電車の吊り革につかまりながら、論述試験に備えて、ノートやテキストを何度も読み返していたことが脳裏に焼き付いている。通勤の[illegible]すれば、かなりのことができていたなといつも思う。

二つ目は、関西大学商学部で損害保険論の助手採用試験があるので、受けてみないかと勧められた夏のことである。

ちょうど六月に入って最初の週であった。試験は九月下旬であるから、正味三か月の勝負である。先生からは、「太陽が黄色くなるまで勉強すれば合格できるから、なんとか頑張れ」といわれたことを記憶している。

これは、修士課程の二年目のことであったが、驚きとともにやは[illegible]試験そのものに対する自信のなさと、たとえ合格したとしても、はたして専門家としてやっていけるのかどうかという不安感が拭いきれなかった。

この年の夏は、幸運な機会に恵まれたにもかかわらず、なぜか私の体は冷えきっていた。とくに試験直前の九月に入ると、手足の先から血の気が引いて冷たくなるのを感じた。やはり、将来に対する不安感と試験を受けることへの怖さが原因であろう。

助手採用の試験科目は、英語とその他仏語または独語から一つ選択の外国語二科目、専門科目と経営学、会計学、経済学のうちから二科目選択の論述試験で計五科目である。ただがむしゃらに各科目の基本的な事項をできるだけ多く詰め込む以外に方法はなかった。量的に膨大な内容のものを熟知しなければならなかった。これで試験に受かればよいが、そうでなければ、ただ徒労に終わるのかと思うとやりきれなかった。

何人の人生においても、必ずチャンスは平等に巡ってくるものであろう。そのチャンスが到来した時に、全力でそれをものにできるかどうかで、その人の人生が決まるといっても過言ではないと思う。ただし、それがその当人にとって本当に良かったのかどうかということは、また別の問題であろう。

それまで何度か試験に失敗したことのある私にとっては、とりわけ試験の結果とそれ以後の自分の可能性が気になった。偶然にも大きなしかもこれまでにない試練が自分の身の上に降り掛かってきたことに対する重圧感があった。

何か大きな目標に挑戦する場合に、躊躇する原因は、一つには、単に結果が失敗に終わることへの恐れではなく、もし万一多大の労力と犠牲を払ったにもかかわらず不成功に終わることへの恐れであり、あるいは、他人からとやかく言われることへの恐れであることが多い。こうしたことを乗り越えられるだけの精神的強さがありさえすれば、かなり問題は軽減されるのではないだろうか。

学生時代にはとにかく、あまり余計なことは考えず勇気をもってできるだけ多くのことに挑みかかるべきである。自分の可能性の範囲をより的確に認識することにつながるからである。最も避けるべきは、迷いながら何もしないで終わってしまうことである。

夏休みが近づいてくると、ふと頭に浮かんでくることである。

(商学部助教授)

星と波と雷鳴

冬木 正彦

夏の思い出となると、やはり日常性から離れた自然との触れ合いということになる。

高校生のときワンダーフォーゲル部に入っていた。高一の夏には東吉野の高見山へ二泊で出かけることになった。一日目は、鞍部になっている所でテントを張った。その時の夕暮れはどうであったか今では記憶にない。思い出すのはその夜の星空。その明るさは、空全体が輝いているという感じ。ただただ感嘆していると、誰かが流れ星を数え出した。結構あるものだ。「星が流れている間に三回繰り返せば願いがかなう」との声が聞こえた。

星が雲のように広がっている。これだから昔の人が星座の話を作ったのだと自然に納得できる。突如、大きな光の塊が光の粒をばらまきながら視界を横切った。視角にして月ほどの大きさであっただろうか。極めて大きな流星であった。この星見がどのようにして終わったかはもう覚えていない。その翌日は一日中霧の中であった。

夏が来るたびにこの星空を思い出すが、残念ながら、その時以来一度もそのような星空にめぐり合っていない。

大学一年の前半、ボート部に入っていた。夏の合宿訓練は強烈で、最初の二、三日は立っているのがやっとであった。が、そのうちになんとかこなせるようになった。夕方の練習の折、合宿所のある瀬田川を遡り、琵琶湖まで遠出することも時折あった。その時の夕暮れ、太陽が比叡の山に落ちてゆく。光線がキラキラと波頭に映え、太陽が比叡の稜線にかかる時には、舷側からずっと遠くまで、光の帯、『黄金の波にいざ漕がん』という琵琶湖周航の歌の第六番そのものの光景となる(ちなみに、この歌はボート部歌であると教えられている)。この時の光景は夏が来るごとにというより、この歌を聞き、歌うごとに思い出す。引き続く歌詞の『語れ我が友、熱き心』という、心の昂りと共に。

昨年の夏には、銀の波にもめぐり会った。ロサンゼルスの郊外のサンタ・モニカのだだっ広い砂の海岸。はるか太平洋の向こうは日本である。その水平線に月がゆっくりと落ちてゆく。長い銀の道ができた。聞こえるのは岸に打ち寄せる波の音のみ。その場で知り合った米国人も寡黙となる。

遂に月が水平線に消えた。茫漠とした広い海。広がりの大きさを感じさせる暗さであった。

大学院生の頃には、主として信州の高原で開かれる「若手夏の学校」に毎年参加していた。ある年、夏の学校の後、数人で新穂高から双六を経て槍ヶ岳まで行くことにした。今から思えば十分な用意、計画もなく、危ないことを試みたものだが、こわいもの知らずで出発した。双六まではたどり着き、テントを張る予定が小屋泊まりとなった。翌日天候が怪しくなってきた。槍の方へ行くのは結局あきらめ、引き返すことになった。

途中、鏡平で一泊し、翌朝は小雨の中、十数名の一団で下山し始めた。途中から雨が激しくなり稲妻も走り出した。剣だったか、落雷による遭難のあったことが頭を横切る。雷鳴が激しく、振動が肌に伝わってくる。扇状地の裾にある灌木の林を進んでいた。

突然、行く手の小径に水が流れ出した。あっと思って見ると、その色が真黒に変わった。引き返そうと今来た方向を見ると、そちらも同じようになりつつある。誰かが「上へ登れ」と叫んだ。必死で少しでも高い所へと岩と木の間をかけ登る。大きな岩陰に留まる。ここまで水が増えてきたら目の前の木に飛びつこうと考える。ここで自分というものが消えるのか、いや何としてでも……。ゴロゴロという音と共に地面が揺れている。雨はますます激しく降り注ぐ。非常に長く感じた後、急に静かになった。水がみるみる引いてゆく。急いで横の斜面に移動する。水が流れていた所は深くえぐられ、中に倒れている木は生皮をはがれ真白になっている。ほっと一息ついたとき、誰かが上を指差した。見ると、雪渓が上部に残っている。我々の真上で雪渓が崩れ落ちたのだった。ゴロゴロという音は雷鳴ではなく、岩が流れ落ちる音だったのだ。かけていたメガネはなくなっていた。その日は再び鏡平に引き返した。次の日、雨もやんだので下山したが、山肌や、特に川筋の有様は来た時とは一変していた。

自然の美しさと、その激しさ、これが私にとって夏が来ると思い出す事柄である。

(工学部助教授)

マジメな夏の過ごし方

渡辺美智子

夏休み。私にとってこの言葉が身近に感じられなくなって久しい。私の専門分野の学会は七月末から初秋にかけて集中する。秋の学会の場合、七月初旬に講演申し込みを済ませているので、それから学会当日までの日々、やるべきことは山とある。

私の所属した研究室の体質として、講演申し込みをした時点で講演要旨をサポートする数値結果が完全に得られていることはまずない。申し込みはいわゆる手形の発行で、この手形が不渡りにならぬようその後の努力が強いられる。まるで赤字経営に悩む中小企業の経営者兼下働きである。

研究室の講座を仕切る教授が日本の高度成長を支えてきた典型的なハタラキバチ(失礼!)の世代であったためか、"夏休み"などもってのほか呼ばわりで、夏期休暇をとって久しぶりに帰省した高校・大学時代の友人の誘いを「抜けれそうにないわ……」と泣く泣く断ったのもこの季節である。取り立てて目的もない、時間だけが有り余っていた学生時代の夏休みは、大学院進学を機に遠くに離れてしまったようである。もっと正確には大学院進学を漠然と希望した学部四年時の夏休み、既に時間を持て余すことはなくなった。

四年生になった年の夏の初め、誰に相談した訳でもなく、もう少し専門の勉強を続けたいという気になっていた。誰に相談した訳でもなくというのは、誰にもこの気分、話せなかったというのが真実である。

高校時代の私は几帳面な優等生とはいえないまでも、大学進学を口にしても奇異な感じを与えないくらいは、マジメな学生であった、と思う。一応、大学受験は入学時から意識していた。この意識はよく考えるとそれほど自発的なものではない。大学進学が社会的に日常化し入学した高校が進学校であれば、家庭においても学校においても、大学までのレールは自然に見えていた。

ただ、高校が用意してくれたレールは大学の入り口までである。迂闊にも私はその事実の大きさに大学入学以後、初めて気が付いた。一応、専門の学部と学科は自分の意思で選択している。ただしその選択は与えられたリストの中からの選択に過ぎず、強い必然性は何もない。何をするために、何を究めるために大学に入るのか、そのことを大学進学の前提として正面に考えていなかった。

また、正面に考える必要性を熱病的な受験指導の最中、落ち着いて生徒に説いてくれる教師も残念ながらいなかった。もちろん教師だけの責任ではない。親切すぎる高校と塾での受験指導、容易に手に入る受験参考書、与えられることに慣れきって、自らの選択を本質的には他人任せにしてしまった本人の怠惰に責はある。

一見、過酷な、その実、過保護な大学受験指導の批判をしているのではない。私が一年半の大学教養課程の間に、選択した専門と関連があるとは思われない一般教育科目の講義と、突然導入もなく教授の興味で話題が進行する専門科目の講義に自然に距離を感じて、いわゆるフマジメな大学生になってしまったイイワケをしているのである。

フマジメな大学生を三年間も通してきた私が、自分の専門に関しての知識の浅さを恥ずかしいものとして意識し、このまま卒業するわけにはいかないとかなりキョーレツに感じてしまったキッカケは、四年生のときの七月、教育実習生として母校の教壇にたったことである。

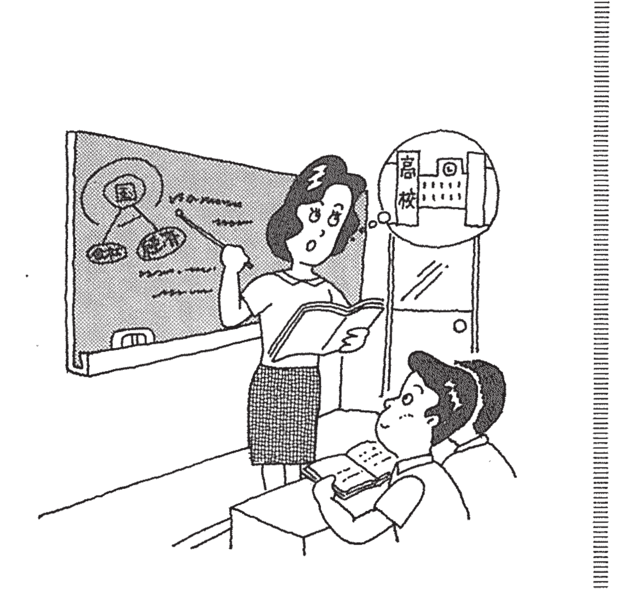
与えられた高校の教科書は型どおりで、どこにも議論や疑問を挟む余地はない。問題意識を持たせない教科書と練習問題を繰り返し、受験指導をする教師になっても生徒の大学入学後に責任がもてない。少なくともこの時期に生徒が選択する専門分野での問題点や興味への足掛かりをつけてあげたい、とナマイキにも思った。そのためには私自身の勉強が足りないことに遅ればせながら気付いたのである。

その年の夏休み。自分でも信じられないくらいだから、故に誰にも話せない、このマカフシギな向学心(?)を実証すべく図書館通いを実行した。日頃、フマジメな私だから突然のこの夏のマジメな行動はすぐに同級生達の言の葉に上がった。どうやら大学院を受験するらしい、という既成事実がこうしてできあがり、結構充実感のともなった長いようで短い夏が終わった。

高校の教員志望であった私は未だにその目的を達成できずに、専門知識の獲得から足を洗えずにいる。未熟なまま、図らずも大学生相手に教壇に立っている。純粋な高校生の前に立つより、ちょっとヒネタ(失礼!)大学生を相手にするほうが浅学の罪は軽いと自己弁護しながら——。

Have a nice summer time for you!

(経済学部専任講師)



OA学会開く

ソーシャル・イノベーションと経営戦略

広田　俊郎

OAとソーシャル・イノベーション

―OA学会について―　中辻　卯一

このような課題を検討テーマとした第十七回OA（オフィス・オートメーション）学会が、六月十八日（土）、十九日（日）の両日、本学で開催された。

そして、この大会の実行委員長である中辻卯一商学部教授にその概要を紹介していただくとともに、本大会で研究報告された広田俊郎商学部助教授および園田寿法学部助教授にその要旨を学生諸君のために分かりやすく執筆願った。オートメーションにかかわるさまざまな問題に関心のある学生諸君にとって興味深い特集といえよう。（陶山）

Office Automation

オートメーションを達成するすべてはこれからである。

つまり、通信機器とコンピュータを結合して、情報の流れをコントロールする仕組みを作り、フェアな取引、一つの会社にとどまらず、複数の企業間、地域をこえての取引の仕方で上手に処理できているようなやり方をいう。

人々が思いこんでいる間は、なかなか新たなシステムの導入に困難である。このように、オフィスの仕事の流れを変えることは、パラダイムの転換にも比すべき困難さが存在するのである。

その困難さにもかかわらず、徐々に、しかし着実に情報処理のコンピュータ化が進展してきた。ところが現在、その情報処理のコンピュータ化が新たな転換期を迎えてきているのではないだろうか。

現代（いま）を間い、またそれを解明するためのキーワードには国際化、「サービス化」などとともに「情報化」が不可欠なものとしてあげられる。経済や社会に与えるそのインパクトの大きさと深さからすれば当然ともいえよう。産業や経営のあり方もそのなかでダイナミックな展開をみせている。また、「情報化」は各種のコンピュータ犯罪やプライバシーの保護など消費者、生活者にとっての市民生活にも新しい問題を投げかけている。いずれも各理論分野からのアプローチが望まれている。

その第一の例として、フェアなエレクトロニクス技術に関しても、エレクトロニクス産業は習慣取引の流れを作り出した。

そもそも、ファルマの松田氏は、従来の情報とモノの流れのあり方を基本的に考え直そうとした。その結果、チェーン店からファルマへ入った注文を問屋に伝え、問屋からチェーン店にモノを直送する作によって知ることができるようになった。

そのような状況を踏まえて、OAの戦略性と社会性を追求することを目標に、今回のOA学会は開催されたのである。

OAと戦略化については、経営戦略、ネットワーキングによる企業革新、DSS（意思決定支援システム）、地域計画、都市情報化と活性化等が取りあげられ、「OAと社会化」については、特に法律面から、コンピュータ・セキュリティ、コンピュータ犯罪の問題が取りあげられた。

これらに関連して、特別講演「OAとAI」がリコー［株］の尾上守夫氏、基調講演「技術革新と法律革新」が京都大学の北川善太郎教授によって行われた。前者は最近の人工知能（AI）の技術的進展との関連から、後者は急速に進展する技術革新に対応するための法革新の必要性の観点からのものである。

両講演とも、最後の「パネルディスカッション」同様に深い感銘を与え、大きな成果をもたらし、学会を充実したものにした。

この研究部門では日目発表された広田俊郎商学部助教授と園田寿法学部助教授からその発表の要旨を述べていただき、学会の様子をお伝えする。（商学部教授）

Office Automation

オートメーションを達成するすべてはこれからである。

つまり、通信機器とコンピュータを結合して、情報の流れをコントロールする仕組みを作り、フェアな取引、一つの会社にとどまらず、複数の企業間、地域をこえての取引の仕方で上手に処理できているようなやり方をいう。

人々が思いこんでいる間は、なかなか新たなシステムの導入に困難である。このように、オフィスの仕事の流れを変えることは、パラダイムの転換にも比すべき困難さが存在するのである。

その困難さにもかかわらず、徐々に、しかし着実に情報処理のコンピュータ化が進展してきた。ところが現在、その情報処理のコンピュータ化が新たな転換期を迎えてきているのではないだろうか。

現代（いま）を間い、またそれを解明するためのキーワードには国際化、「サービス化」などとともに「情報化」が不可欠なものとしてあげられる。経済や社会に与えるそのインパクトの大きさと深さからすれば当然ともいえよう。産業や経営のあり方もそのなかでダイナミックな展開をみせている。また、「情報化」は各種のコンピュータ犯罪やプライバシーの保護など消費者、生活者にとっての市民生活にも新しい問題を投げかけている。いずれも各理論分野からのアプローチが望まれている。

統一テーマは「OAとソーシャル・イノベーション」で、サブ・テーマとして「OAと経営戦略」「OAと社会性」の二つきている。その一つが「情報」をめぐる問題である。

新しい犯罪

「情報」つまりそれは、重要な機能をはたしていることは疑いない。しかし、なぜ「情報」がそんなに重要なのだろうか。

たとえば大阪から東京に物を移動させるかわりに、設計図を送れば東京に同じ物を組み立てることができる。実際に物を扱うかわりに、「情報」を操作することによって同等の効果を得ることができる。このように「情報」には一般に物質とエネルギーとをコントロールする機能が認められる。コンピュータはこれを「瞬時に全世界の法秩序にまで思もさなかった新たな侵害行為の可能性が生じ、法律と事実の隔たりが大きくなってきている。そもそも「情報」は、この意味で、情報は土地・労働・資とは異なる新しい産業資源であり、価値を担った財であるといわれる。

しかし、わわれの日常生活とコンピュータによる情報処理システムが浸透していくにつれて、潜在的な犯罪者に対しても新たな活動領域が開かれていく。すでに多数のキャッシュカード等を悪用する犯罪が偽やコンピュータを不正に操作する事例が認知されている。

このような不正行為に対して、従来は伝統的な窃盗罪や詐欺罪あるいは背任罪等の犯罪類型を適用して、具体的な事案の解決がなされてきた。しかし、伝統的な刑罰規定の適用については、その限界も意識されていた。

新しい刑法

一九八六年六月二十二日、刑法の一部改正され、コンピュータ犯罪に対処するために若干の刑罰規定が新設ないし補充された。改正の主眼は、(1)文書犯罪の領域、(2)業務妨害罪の領域、(3)詐欺罪の領域についてはは、この要件が欠如しているとされる。キャッシュカードの磁気ストライプ部分に他人の預金口座の預金番号や暗証番号等を印字する行為や虚偽の入金データを銀行の端末機から入力して、預金元帳ファイルに虚偽の記録をした場合、さらに加へOA学会は開催されたのである。

（1）刑法は、元来、情報の媒体としての「文書」を保護することによって、「情報」そのものを間接的に保護している。しかし、情報の不正入手やコンピュータ等の無断使用については犯罪とされなかった。後者については、民事制裁を免れることが妥当であるし、前者については、保護されるべき営業秘の範囲や種類等についてさらに議論が必要だからである。盗んでも無へならないが、盗まれれば莫大な被害が生じる情報、当則性は認められるが、自由な情報の利用を前提とする社会の一部の商取引の合併による米国の情報、社会システム・スクール構想。

第三は、第二と関連するが主として社会に向けての大学院構想。これは大阪市立の大学院経済学科が高齢篤学者を対象として、成果を挙げたことが参考とされよう。

第四は、大学院の廃止、将来、日本の大学も大学院大学と学部大学とに分かれることが予測される。経済学部は学部大学を選択する。

（2）従来の業務妨害罪において、「人に対する妨害」行為が処罰されることになった。

（3）詐欺とは、被害者をだまして錯誤を生じさせ、一定の財産処分を行わせることである。錯誤とは「人間の心理状態である。ただ、虚偽の情報、当則性は認められるが、自由な情報の利用を前提とする社会の一部の商取引の合併による米国の情報、社会システム・スクール構想。

第三は、第二と関連するが主として社会に向けての大学院構想。これは大阪市立の大学院経済学科が高齢篤学者を対象として、成果を挙げたことが参考とされよう。

第四は、大学院の廃止、将来、日本の大学も大学院大学と学部大学とに分かれることが予測される。経済学部は学部大学を選択する。

第一は、関関同立四大学の共通の大学院構想。現行では四大学内の大学院での相互履修が認められているが、これを押し進めて大学院を一本化することである。

第二は、経、商、および法、社会の学部の合併による米国の一部の商取引の合併による米国の情報、社会システム・スクール構想。

第三は、第二と関連するが主として社会に向けての大学院構想。これは大阪市立の大学院経済学科が高齢篤学者を対象として、成果を挙げたことが参考とされよう。

第四は、大学院の廃止、将来、日本の大学も大学院大学と学部大学とに分かれることが予測される。経済学部は学部大学を選択する。

第一は、関関同立四大学の共通の大学院構想。現行では四大学内の大学院での相互履修が認められているが、これを押し進めて大学院を一本化することである。

第二は、経、商、および法、社会の学部の合併による米国の一部の商取引の合併による米国の情報、社会システム・スクール構想。

第三は、第二と関連するが主として社会に向けての大学院構想。これは大阪市立の大学院経済学科が高齢篤学者を対象として、成果を挙げたことが参考とされよう。

第四は、大学院の廃止、将来、日本の大学も大学院大学と学部大学とに分かれることが予測される。経済学部は学部大学を選択する。

文学研究科 神仙学士の入来を待つ

文学研究科長　神堀　忍

現代社会では、科学技術の進歩は著しく、また経済組織とその運営は高度化し、他方、人間性・文化・芸術・自然などに対する関心も高まっている。このような現代社会の現状に対して、法律や政治もそれを支持したり、規制したり、好ましい方向へ導いていく機能を発揮することが要望され、社会の変動に即応し、将来を展望した法律学・政治学を身につけた人材が必要となる。

そのためには、既存の知識をもとに、未知の問題にも対処しうる能力をもつことが必要となる。習ったこと、本で読んだことは処理できるが、そうでないことはどうにもならないでは、社会の変動に対応できないわけである。

たとえば、法律学を身につけるということは、自分で考え解決する力を身につけることであるが、考え解決するためには、いろいろの知識が必要であり、先ずそれを修得することが必要となる。とこ

法学研究科 将来を展望した法律学・政治学

法学研究科長　菱田　政宏

ろで、法学部に入学して、現代社会の問題を考えるを勉強していくことになるので、応用能力が著しく向上することになろう。

大学院法学研究科には博士課程前期課程と博士課程後期課程とがあり、学部を終えた者は前期課程に入ることになる。

法学研究科の前期課程入学者には、研究者志望のほか、司法試験など各種の国家試験の受験をめざす人々が多い。そのうち、大学院への進学者は非常に少ないのが現状である。

博士課程前期課程では自己の専門分野の科目のほか、他の専門科目についても勉学することになるが、いずれも、小人数で十分な指導が行われるので、関心と熱意をもって取り組むかぎり、そこで修得した学問については本当に自分の身についたという実感をもつことになろう。

そして多くの人は前期課程を終え、法学修士の学位を得て、実社会へ出て行く。関西大学の法学修士の学位をもった、弁護士、税理士の公務員も数多い。

研究者を志す人の多くは、博士課程前期課程から後期課程に進む（前期課程を終えて大学の助手として採用される人も多い）。後期課程で研究に励み成果を挙げた人は、大学などに研究者として就職する。現在わが関西大学はいわゆる全国の大学・短大などに研究者として就職する。現在わが関西大学はいわゆる全国の大学・短大などに研究者として就職する。そして、大学等業者の割合が高くなるに従い、今後大学院のあり方やその内容について関心が高まってくるのではないかと思われる。そして、社会の変遷に対応し、将来を展望した高度な法律学・政治学を身につけた人材の要が、研究者の ほか社会の各分野において今後高まってくることが予想される。

学問を身につけたい と望む者の将来における希望が、多様化していくであろうことは、教育に対する関心が強くなる基盤となっていると思われる。そして、大学院においても、今後は研究者養成とともに、社会の変動に即応できる、高度な法律学・政治学を身につけた人材の養成が期待されるであろう。

（法学部教授）

続 いま大学院では

現状と将来

本学の研究、教育の根幹を担い、専門分野のスペシャリストを養成している各研究科の現状とビジョンについて、ご執筆いただく、近年の学問研究の多様化の方向に対応して、より専門化を進めようとしている本学の大学院について、理解を深めていただくために、前回と合わせて「続」願いたい。

（奥村）

千里山キャンパスの大学院学舎（岩崎記念館）

経済学研究科 少数精鋭主義

山本　繁綽

経済学研究科は経済学の理論・政策・歴史を含む二十数種の魅力ある専門科目（講義＋演習）を提供している。詳細は「大学院要覧」を参照していただきたい。だが表のように、定員（博士課程前期一学年五〇名、博士課程後期一学年二名）を大幅に上回っているのが現状である。それは他の文系諸研究科も同様であるが、経済学研究科の場合はとくに顕著である。

その理由はうら思われる。経済学部の学生は圧倒的に企業への就職を希望している。ところが、日本の企業は文系の大学院卒を通常は採用せず、高度の事務的技術が必要な場合でも、企業内訓練という方式をとっている。そのため、大学部卒業時の就職は学部卒業を中心とする専門科目（講義＋演習）を提供しているのである。

博士課程前期(修士課程)				博士課程後期			
年度	受験者	合格者	手続者	受験者	合格者	手続者
63	2	1	1	1	1	1
62	1	1	0	2	0	0
61	2	1	0	2	0	0
60	9	2	2	1	1	1
59	8	1	1	0	0	0
58	5	2	2	1	1	0
57	6	4	4	0	0	0
56	5	2	2	1	1	0
55	5	3	3	2	2	2
54	5	2	2	2	2	2
53	8	3	3	2	2	2
52	9	7	6	3	3	2
51	6	6	6	2	2	1
50	6	6	6	2	2	2

商学研究科 一層の充実に向けて

商学研究科長　来住　哲二

社会の高度化が進むにつれて、学問研究における高度化が求められている。商学における研究分野においても、他の研究分野におけるように、細分化、専門化の傾向が強くなっている。しかし現在の大学レベルでは考える力を養うことは難しくなっている。

現在、商学研究科には商学専攻と会計学専攻があり、それぞれ博士課程前期課程（いわゆるマスター・コース）と博士課程後期課程（いわゆるドクター・コース）が設けられており、第一次選考（書類審査）が十月、第二次選考（筆記試験及び口頭試問）が二月に行われる。大学院の目的は、修士課程では高度の職業教育、博士課程では研究者の養成であるが、しかしいま述べた理由から、経済学研究科の場合は、最初から後者の目的一本にせざるを得ない。当然のことながら、入学試験の難は厳しく、合格者は年間一、二名程度のごく少数にとどまるわけである。

だが、このような経済学研究科の現状は最選規模から大幅に乖離

商学研究科 少数精鋭主義

年度	博士課程前期(修士課程) 受験者	合格者	手続者	博士課程後期 受験者	合格者	手続者
63	2	1	1	1	1	1
62	1	1	0	2	0	0
61	2	1	0	2	0	0
60	9	2	2	1	1	1
59	8	1	1	0	0	0
58	5	2	2	1	1	0
57	6	4	4	0	0	0
56	5	2	2	1	1	0
55	5	3	3	2	2	2
54	5	2	2	2	2	2
53	8	3	3	2	2	2
52	9	7	6	3	3	2
51	6	6	6	2	2	1
50	6	6	6	2	2	2

図書館だより

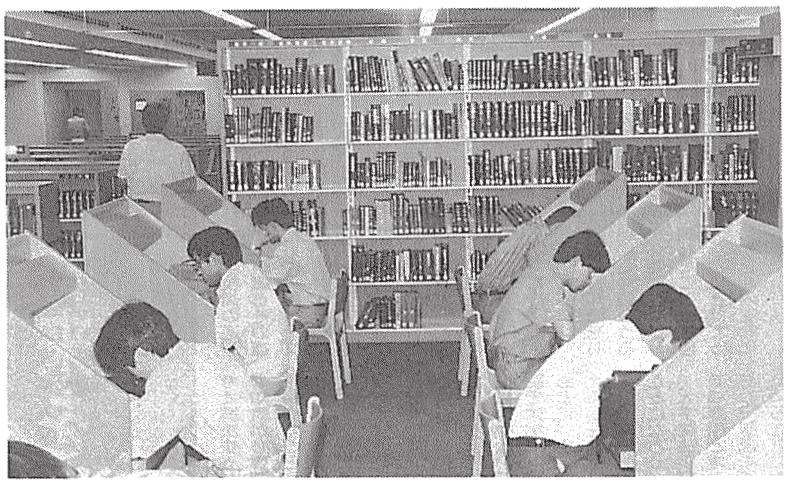
文献を上手にさがそう

卒論・レポート作成のために

皆さんの中には、「そろそろ本腰を入れて卒論に取り組まなければならないが、図書館では開架閲覧室に並んでいる本を借りた経験しかなく、文献集めをどうしてよいかわからない」という人も少なくないと思う。

『朝日ジャーナル』四月臨時増刊「BOOK GUIDE'88」に、四年生になっても、開架閲覧室以外に本があることを知らない学生がいるということが漫画になっていたが、これを見て身につまされる人もいるだろう。

開架閲覧室で、並んでいる本を見るのも文献集めのひとつの方法ではあるが、それでは、図書館資料のせいぜい十分の一程度利用したことにしかならない。そこで今回は、もう一度基本に戻ってテーマにそった文献のさがし方を復習してみよう。



レファレンス室で熱心に勉学する学生達

◎テーマにそって文献をさがすには

テーマが決まれば、そのテーマについて、過去にどんな研究がなされているか調べる必要がある。また、文学研究などでは、原典にあたることが必要である。過去の研究について知ることは、そのテーマの研究動向を知り、これからの研究の糸口をつかむ出発点である。これらの研究は、単行本になっていたり、雑誌に掲載されていたりするが、これを自分の文献目録として記録しておくとよいだろう。

文献をさがすには次のような方法があげられる。

○開架閲覧室で直接さがす

二階開架閲覧室では、分野別に資料が配架されているので、その関係分野の書架を書店で本をさがすように端から見ていく方法である。ここには、学習用として入門書や概説書が多く配架されており、これらのほとんどには参考文献リストが掲載されているので、研究の手がかりとして有効である。そこには、図書や雑誌論文の情報が載せられている。図書の場合は、開架の書架にあるかをまず調べてみよう。なければ、一階のカード目録で書庫にあるかを確認しよう。また、雑誌論文は、その収録雑誌名がわかれば「逐次刊行物目録」で本学に所蔵されているか調べればよい。

○カード目録で図書を検索する

図書館に所蔵されている図書の九〇パーセントは地下の書庫に収蔵されている。これらの中から必要な図書をさがすには、一階にあるカード目録を利用する。書名がわかっていれば「書名目録」、著者がわかっていれば「著者名目録」で検索する。

特定の分野にどのような図書があるかを知りたい時は「分類目録」を使うとよい。これは、『日本十進分類法』に基づいて主題ごとに図書に分類記号をつけ、その図書カードを順に配列したものである。そのため同一主題の図書カードが一カ所に集まるようになっている。したがって、調べたいテーマが『日本十進分類法』で何番にあたるかを調べ、その分類記号で目録を検索すれば、図書館が所蔵しているそのテーマに関する図書をひととおり見ることができる。

『日本十進分類法』は、各カウンターに備えられているので自由に見ることができる。またそれを簡略化した分類表がカードボックスの上に置かれているので利用してほしい。

○雑誌論文をさがす

雑誌論文をさがすには、『雑誌記事索引（人文・社会編、科学技術編）』（国立国会図書館）や『科学技術文献速報』（日本科学技術情報センター）がある。これらは、雑誌論文を主題に分けて収録し、論文名のほか執筆者名・誌名・巻号が掲載されている。索引を備えて執筆者名などからも検索できるようにしているので便利である。

○参考図書を活用しよう

一階レファレンス室には、その他に索引や目録などさまざまな参考図書がある。その中には、研究分野を限定してその分野の図書や雑誌論文の情報を集めた文献目録があり文献集めには強力なツールである。これらを使えば、本学に所蔵していない文献の情報も得ることができる。本学にない資料は、他の図書館との相互利用によって取り寄せることができるので、レファレンス・カウンターに相談してほしい。分野別の文献目録を見つけるには、先に述べた分類目録を検索するほか、図書館が上位年次用に用意している『ガイドブック　文献のさがし方から入手まで』という冊子に文献収集のために役立つ参考図書を分野別に掲載しているので活用してほしい。

はじめにも述べたが、このようにして調べた図書や雑誌論文は、自分の文献目録に書きとめておくとよい。その際、図書では、「書名・著者名・出版社・出版年・ページ」、雑誌論文の場合は、「論文名・執筆者名・雑誌名・巻号・発行年月・出版社・ページ」などを正確に書いておくべきであろう。

◎カウンターから

図書館の蔵書を検索するうえで気をつけてほしい点にふれておくと、図書をさがす場合はカード目録、逐次刊行物（雑誌、大学紀要や年鑑、白書など巻号をもって継続する出版物）をさがす場合は『逐次刊行物目録』を利用する。ただし年鑑、白書類は、整理の都合上一部がカード目録のほうに入っている場合があるので、両方を検索してほしい。メイン、開架両カウンター前にある端末機では、書名・誌名、著者名でコンピュータ検索もできる。

また、朝日新聞や毎日新聞などマイクロ化された資料もあるのでレファレンス・カウンターに備えている「マイクロ資料目録」で検索されたい。マイクロリーダーの使用についてはレファレンス係に申し出てほしい。

図書館では先の『ガイドブック』のほか、リーフレット「図書館HOW TO」シリーズ、ビデオ「私と図書館―資料をもとめて―」、「図書をさがすには―カード目録の利用法―」および「雑誌論文のさがし方」を用意している。これらは今まで述べてきた方法を実際に即してより詳しく述べている。これらのビデオは、二階AVコーナーで見ることができるので、ぜひ役立ててほしい。

（注）『朝日ジャーナル』30巻16号一二五頁「大学の図書館で」

BOOK 新刊紹介

法学部教授　竹下　賢ほか著
『法思想史』
（有斐閣・一五〇〇円）

昭和初年の小野清一郎『法律思想史概説』以来、わが国には法思想史の通史的概説書が何冊か存在している。それらの多くは法哲学者の手になるものであり、通常は西洋の各時代の代表的思想家の法理論を解説するというスタイルをとっている。

竹下教授ほか関西在住の気鋭の法哲学者四人によって大学のテキストとして執筆された最新の法思想史概説書である本書は、基本的には従来のスタイルを踏襲しているが、他の概説書にはみられない大きな特徴をもっている。それは、近現代の法思想を重視するという視点である。

本書は、「古代から中世へ」、「近代法思想の形成」、「近代法思想の展開」、「近代から現代へ」、「戦間期の法思想」、「現代法思想」という六部からなるが、第二部以下が全体の約八割の紙数を占めていることが何よりもこの視点を雄弁に物語っている。とりわけ第六部の充実は本書を類書中の白眉とするものであり、読者はドイツおよび英米における最新の法理論について的確な情報を与えられる。法哲学の現況を俯瞰するためにも有益な書物であるということができよう。巻末の十五頁にわたる年表も便利である。

（市原靖久）

法学部教授　福瀧博之著
『教材・現代手形法学』
（法律文化社・三五〇〇円）

本書は、著者が法学論集および百周年記念論文集に発表された論文七編を集めたものである。が、本書は、論文集としてではなく、「論文を、私の講義において学生諸君とともに考えるための『教材』として利用するため」に刊行されたものであり、それは、「大学における学問研究とその学生への教授とは、本来、不可分のものである」との著者の確信に基づいている（本書「はしがき」より）。

本書に掲載された論文は、現在の手形法学における幾つかの重要問題を、内外の見解を紹介しながら論じたものである。わが国の手形法学は、対象を手形法独自の問題に限定しているため、極めて特異な見解が主張され、かなりの支持を受けるという現状にある。しかし著者は、その解釈学においてオーソドックスな立場を採られており、本書も著者の見解を押売するものではない。その意味で、手形法を学ぶ者が安心して参考書の一つに加えることができる書物であろう。

（早川　徹）

法学部教授　藤田久一編
『軍縮条約・資料集』
（有信堂・二九〇〇円）

INF（中距離核戦力）廃棄に関するモスクワ会談の報道が大きくなされたことは、われわれの記憶に新しいところであるが、近年「軍縮」の問題に対する関心が、各方面でとみに広がりを見せている。蓋し「戦争」・「平和」の問題にとどまらず、「人権」・「福祉」・「失業」・「環境」等の問題と当該の問題が深く関係しているという理解の進展があるからなのであろう。

本書には、関連の問題領域を広範な視野から眺望し、関連文書への綿密な検討を加えたあとが窺われる。収められた条約・資料の配分・配置も優れて均衡的・安定的なものとなっている。『国際人道法』・『軍縮の国際法』等の数多くの成果をもって、わが学界に粛々たるインパクトを与え続けておられるこの編者によってこそ本書の誕生があったというべきであろう。国際法・国際政治学の研究者や外務省その他の関係諸機関の専門家のみならず、関心ある多くの人々にとっても恐らく必読・必携の書になることであろう。

なお、本学大学院法学研究科の糟野・樋口両氏が本書編集の協力をされている。

（眞鍋俊二）

法学部教授　森　省三ほか編
『憲法　基礎理論と演習』
（嵯峨野書院・二四〇〇円）

本書は、編者三名を含む七名の憲法学者がそれぞれ得意の分野を分担執筆してまとめた憲法の教科書である。第一編「総論」、第二編「統治の組織と作用」、第三編「国民の権利および義務」の三編で構成されており、全体として一般教養科目において教えられる憲法理論が平易に論述されている。

第一編は二章からなり、第一章では憲法の概念や歴史、効力等について、また、第二章では日本国憲法制定の経緯、日本国憲法の基本原理およびその改正手続等について述べられている。第二編は六章からなり、それぞれ天皇、国会、内閣、裁判所、財政、地方自治の章に当てられている。また第三編は七章からなり、人権総論から始まり、自由権、平等権、参政権、社会権、国務請求権、国民の義務について順次解説されている。

このように、本書は極めてオーソドックスな内容で構成されているが、各章の後に「研究問題」を設けるなど工夫されている面もある。ただ、編著書にしばしば見受けられる記述内容の程度に難易のばらつきがある点と「研究問題」が必ずしも題名どおりの演習向きとはなっていない点がいささか気にかかるところである。

（池田敏雄）

ニーナ・ベルベーロワ著
文学部教授　工藤精一郎訳
『鉄の女――サー・ロッカート、ゴーリキイ、H・G・ウェルズの愛人の生涯――』
（中央公論社・二四〇〇円）

ゴーリキイが「鉄の女」とよんだ才色兼備の伯爵夫人ムーラがたどった運命はロシア革命の、ソビエト権力闘争の裏面史である。彼女をめぐる最初の男性は革命をはさんでの六年間、この国に駐在した英国の首席代表ロッカートである。彼がソビエトから追放されたあとはゴーリキイの秘書・愛人として彼をささえる。彼女に魅せられた男性のなかにはH・G・ウェルズがおり、「全露非常委員会」のペテルスがおり、象徴派の詩人ブロークは烈しい思慕の詩を捧げる。作者ニーナ・ベルベーロワは記憶と膨大な資料を駆使しムーラを媒介として暗黒な時代の真実に迫る。

特に興味深いのはゴーリキイの、そしてウェルズの栄光と没落である。シンボリストもアクメイストも理解できなかっただけでなく、憎悪し自らスターリンの軍門にくだってゆくゴーリキイ。ウェルズを敬遠した人々には何の危険もなかったが、ゴーリキイから離れた人々には文学的名声ばかりか生命をも失う危険が待っていた。ムーラは余世をほとんどロンドンで送り一九七四年にこの世を去る。作者は亡命ロシア人でコロンビア大学のロシア文学元教授。

（小泉義勝）

文学部教授　小山仁示著
『西淀川公害――大気汚染の被害と歴史――』
（東方出版・一八〇〇円）

本書は出版と同時に四大新聞紙上に大きく紹介された。また阪急梅田のK書店の一等場所に本書が多数積み重ねられているのは、知る人ぞ知る。本書公刊の社会的反響の大きさを伝えるには、この事実だけで十分であろう。

〝西淀川ゼンソク〟の名で大阪一の工業区の公害が全国的に有名になったのは約二十年前のことである。その後区民と行政の協力によって、西淀川の空に少しずつきれいな空気と太陽が戻って来たけれども、今日なお同区の公害が大阪の中で最もひどいのは何故か。それを求めて著者は大阪の大気汚染の歴史を調べ始めた。大阪の空がいつ頃から、誰によって汚されてきたのか、そしてその被害者は誰か。

今日の西淀川の公害は、戦前から戦後まで企業による汚染の蓄積結果であり、それの犠牲者は庶民であること、そして公害解決のためには被害者である住民運動が不可欠である、というのが著者の実証的研究から引き出された結論である。

本書は、わが国有数の現代史家による公害という企業犯罪の告発書であると共に、著者の奥様をはじめとする亡き公害病患者への鎮魂の書でもある。

（戒田郁夫）

文学部教授　坂出祥伸編
『中国古代養生思想の総合的研究』
（平河出版社・一五〇〇円）

中国の伝統思想のなかで、その重要性がつとに認められながら、本格的に研究されていないテーマに、養生術とその思想がある。

養生思想とは何か。それは生命を正しく養い「平生の健康の維持もしくは、できうれば長生を得ようとする」考え方である。

かつて「中国近代の思想と科学」で近代中国の科学観を分析した坂出祥伸教授は、研究方向を一転し、古代中国におけるその養生思想に真正面からとり組もうとする。

そして中国哲学、東洋史、中国医学などを研究する二十名の学者をあつめ、昭和六十年から二年間、文部省科学研究費をえて、この大問題に挑戦した。その成果が本書である。

「中国古代養生思想研究の現状と課題」と題する編者の「総論」にはじまる本書は、医薬学と養生思想、古代諸思想と養生説、道教と養生思想、仏教と養生思想、日本・イスラム・ヨーロッパの養生思想――という五章からなる。

合計二十九篇の論文のなかには西ドイツと中国の学者も文章を寄せているほか、本学中国文学科の吾妻重二専任講師が、北宋の張伯端の著作に詳細な考証を加えた「『悟真篇』の内丹思想」という力作を執筆している。

A5版八二〇頁の大著を上梓された編者坂出教授の労を多としたい。

（河田悌一）

商学部教授　加藤義忠
同　保田芳昭　編
『現代流通論入門』
（有斐閣・一九〇〇円）

学生にとって良いテキストとは何か。まず、読み易いこと。高度な内容もわかり易く、平易な文章で書かれていなければ読んでもらえない。そして、最近特にそうであるけれども、理論ばかりでは学生は見向きもしない。現実の具体的な事象に触れながら、しかも理論が学べるようなものが歓迎される。時には、図表や写真を混じえて。

内容的には基礎的なことから現代の諸問題すべて（とはいかなくても主要なものほとんど）にわたっていることが望ましいが、項目的には多からず少なからず、一年間で終えることのできるものが良い。テキストは買ったけれど、半分も進まなかった、では学生の不評を買う。最後に手ごろな価格。

こういう点から見て、本書は水準の高いテキストとなっている。現代の流通をめぐる諸問題は複雑で幅広い。流通関係の講義を受講している学生はもちろんのこと、流通問題に興味のある学生にはぜひ手にとってもらいたい書物である。

（三谷　真）

▶編集後記◀

大学の前期・夏季休暇・後期はいわば一年の序・破・急。「破」は「序を破って、いろいろのおもむきをつくす姿」の意という。

今夏も、学生諸君はそれこそ「いろいろのおもむきをつくす」ことであろう。願わくばそれぞれの一年の美しき「急（フィナーレ）」につながるものであってほしい。

そこで、盛夏をむしろ進んで向かえる心意気で「夏山讃歌」（第一面）を、また極上のお手本として特集「夏が来れば思い出す」（第四・五面）を配した。

太陽の季節の霊験あらたかに、「キャンパス情報」（第二面）から最終面の「新刊紹介」まで、充実した内容の紙面になったと自負している。

お忙しい中を縫って、原稿をお寄せいただいた先生方には厚くお礼を申し上げる次第である。

（奥村・陶山）